

## ■ 主題研究

# 令和5年度 紫波西学園 校内研究計画

【研究主題】 義務教育9年間を貫く学びによる児童生徒の育成

～伝え合い、響き合い、高め合う授業づくりを通して～

### I 主題設定の理由

#### (1) 今日の課題から

現行学習指導要領では、知識及び技能が確実に習得されるようにすること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成すること、学びに向かう力、人間性等を涵養することの三つの柱で「資質・能力」の育成を目指すことが示されている。また、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

学ぶ意味と自己の将来を主体的に結びつけながら、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける児童・生徒を育成する必要があると考える。

紫波町においては、児童生徒の知・徳・体のバランスの取れた力の育成と社会の変化に対応できる資質・能力の育成、そして、グローバルな視野を備えた心豊かな人間の育成を目指すため、(1) 他者との関わりで必要となる資質・能力の向上 (2) 自分自身の生き方の基本となる資質・能力の向上 (3) 全ての基礎・基本となる資質・能力の向上の、3つの大きな目標を小中一貫教育の目標として掲げている。

(1) 他者との関わりで必要となる資質・能力の向上においては、予測困難な社会の中で、児童生徒の自己肯定感を育てるため、その過程を認める評価の設定や、自分の力を正しく判断し高見を目指すメタ認知能力の育成等、指導と評価に関する工夫改善を行うとともに、多様な異年齢交流等や社会との関わりなどを通じ、思考力、判断力、表現力、自制心を養うための教育課程を編成・実施することが求められている。

#### (2) 教育目標の具現化から

紫波西学園は、令和3年4月に紫波町の小中一貫校「紫波西学園西の杜小学校」として開校した。紫波西学園では、教育目標（目指す子供像）として「自ら未来を切り拓いていく人間の育成」を掲げており、経営の方針が「『かかわり』をキーワードにした経営」となっている。すなわち「多くの人や物との関わりを大切にすることにより自分自身を磨き、高め、豊かな心を育んでいく。そして、自分の夢に向かって目標をもち、意欲的に学び続けようとする教育活動を全職員で展開していく」というものである。

これらを受け、小学校の教育目標は、「進んで学ぶ児童」「心豊かな児童」「たくましい児童」であり、中学校の教育目標は、「主体的に学ぶ生徒」「奉仕の心を持つ生徒」「健康で活力のある生徒」となっている。

#### (3) 児童・生徒の実態

小中一貫校となって2年を経て、かかわりの場は、友だち、校内、学園内、地域と拡大し、児童・生徒の視野は広がり、社会性も培われてきた。しかし、ふるさと（紫波町・西地区）の理解やふるさとについて考える学びは、地域との協働により発展の余地がある。また自分の考えをもって、他者と関わったり、自分の考えをもって対話したりする力が弱く、学びに広がりをもてない児童・生徒も少なくない。

ふるさと学習（生活科・総合的な学習）を中心に教科横断的に「伝え合い、響き合い、高め合う授業づくり」をめざすことは、様々なかかわりをさらに深め、主体的・対話的で深い学びにつながるものと考え。「伝え合い」には、自分で考え表現することが求められ、自律的に学ぶ姿といえ、「響き合い」には、課題解決のための知恵と力を合わせることを求められ、協働的に学ぶ姿といえる。そして「高め合い」には、学びを広げ深めていくことが求められ、創造的に学ぶ姿といえる。

こうした授業を義務教育9年間貫き学び続けることは、紫波西学園の小中一貫教育目標「ふるさとの未来創造的な学びを実現する児童生徒の育成」につながっていくものと考え、研究主題を設定した。

## II 研究の目標

9年間にわたる長期的な展望のもとで、主体的・協働的に学べる児童・生徒を育成するために、「ふるさと学習（生活科・総合的な学習）」を中心に9ヵ年の小中一貫カリキュラムを作成すること。また「伝え合い、響き合い、高め合う」児童・生徒の姿を追究しながら、子供の学びの在り方の工夫を研究していく。

## III 研究内容

- (1) 伝え合い、響き合い、高め合う授業づくりの実践と教師のファシリテートの在り方
- (2) 小・中をつなぐ算数・数学の授業の在り方
- (3) 効果的なICT機器の活用方法について

## IV 研究の基本的な考え

### (1)「伝え合い、響き合い、高め合う授業づくり」について

子どもたちが「伝え合い、響き合い、高め合う授業」は、主体的・対話的で深い学びとなると考える。

伝え合うには、自分で考え表現することが必要・・・自律的に学ぶ

響き合うには、課題解決のために知恵と力を合わせる・・・協働的共同的共同的に学ぶ

高め合うには、学びを広げていく・・・創造的に学ぶ

伝え合い、響き合い、高め合う「自律・協働・創造の学び」のモデルを以下のように示す。

<p>※ 主語は児童生徒</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 見る・聞く・読む</li> <li>2 気づいたことを発表する（伝え合う）</li> <li>3 問いを立てる</li> <li>4 見通しをもつ</li> </ol>	<p>※ 教師の役割】</p> <p>【効果的な情報提示】</p> <p>【一人ひとりの気づきをキャッチする】</p> <p>【問題意識を持たせる投げかけ】</p> <p>【手がかり（既習事項や経験等）の提示】</p>
<p>※ 5～8は児童生徒に学びを委ねる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 解決のアイデアを考え試す（響き合う）</li> <li>6 グループでよりよい解決方法を探る</li> <li>7 みんなに説明する（プレゼンテーション）</li> <li>8 根拠や理由を基に良い点や課題を評価する（高め合う）</li> </ol>	<p>【ファシリテーション&amp;コーチング】</p> <p>【拡散思考】</p> <p>【収束思考】</p> <p>【わかりやすく伝える】</p> <p>【根拠・理由・評価】</p>
<p>※ 9～10はまとめと振り返り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 自己評価</li> <li>10 振り返り</li> </ol>	<p>【教師からのフィードバック】</p> <p>【「目標やゴールは何だったか・何ができるようになったか・次に何をすべきか」を確認させる】</p> <p>【教科の特質に応じた見方や考え方の良さや今後の学習や生活に活かしたいことを自分の言葉で表現させる】</p>

### 授業づくりの鍵となる教科の特質に応じた言語活動の例

国語	文章を読み、その情報に基づいて議論し、そこで考えた結果、あるいは自分なりの問題相決のあり方を、適切な型を用いた作文で表現する。
社会	基本的な知識を学んだ後、それを活用して柔軟に建設的に思考し、問題について検討する。
数学	ある事象について、数字と記号を用いて論理的に証明する。
理科	課題を発見し、仮説を立てて考察し、証明して結果を提示する。
音楽	鑑賞において、楽譜の分析（アナリーゼ）と批判的検討により、楽曲を深く味わう。
美術	鑑賞において、絵の分析と批判的検討により、主題を自分なりに考えてその内容に深く迫る。
保体	ゲームにおいて、他の選手とのコミュニケーションを円滑にし、またつねに考えながら意図を持ってプレーする。
技家	実習等のまとめにおいて、生活における課題解決のため、言葉や図表、概念を使用して結果を整理し、自分の考えを説明する。
英語	英語で書かれたり話されたりする情報、事実や課題の背景や原因、理由をしっかりと考える。 相手が理解できるように、筋道を立てて分かりやすい英語で表現する。
総合	事実に基づいて課題を見つけ、課題解決のための探求的な学習活動を通して、自己の生き方を考える。
道徳	読み物資料等における道徳的価値について、事実に基づき自分の意見を述べて、人間としての生き方についての自覚を深める。
特活	日常生活における課題解決を事実に基づき話し合い、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係のあり方を考える。

## (2) 授業で互いに「伝え合い 響き合い 高め合う」ために意識させたいこと

「伝え合い 響き合い 高め合う」授業は、友達とのより良い人間関係が土台になっている。そこで本学園では、学級を単位に取り組み「探究の対話 (p4c)」で学びと学校生活の土台を築き、そこで培った信頼と安心をもとに、授業で互いに「伝え合い 響き合い 高め合う」授業を目指している。

他者との対話においては、自分の思いを一方向的に述べるのではなく、何かを伝える際には必ず相手の存在があること、相手の立場を尊重して相手を理解しようとする気持ちが大切であることを意識させたい。そこで、小森 茂氏が提唱する「伝え合う力」を高めるための構成要素をもとに、対話の際に意識させたい5つの視点を図として作成した(図1)。子どもたちはこの視点により、自分が伝えたい内容を明確にすることができると同時に、伝える相手を尊重する気持ちを持ってコミュニケーションすることができると思う。

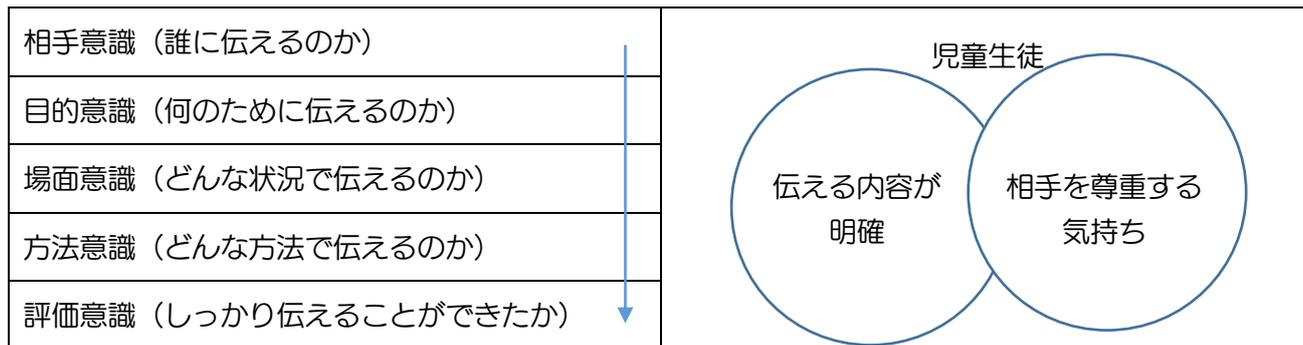
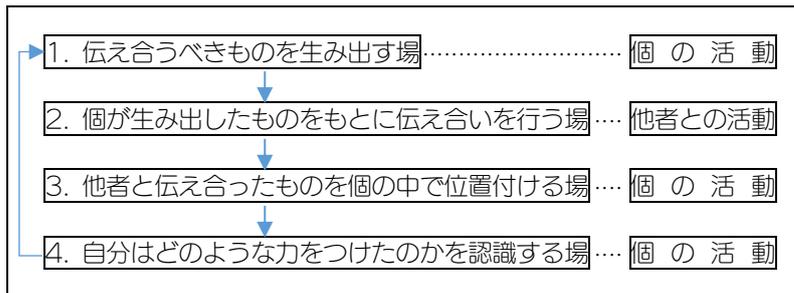


図1 授業において児童生徒に意識させたい5つの視点

また、授業において児童生徒の主体的・対話的な学びを引き出すには、ファシリテーターである教師の働きかけが大きな役割を果たすと言える。そこで、堀江祐彌氏の「豊かな伝え合い・高め合いを実現するために行うべき教師の支援」を参考に、指導者が行うべき場の設定を図2のように考えた。



## (3) 授業で互いに「伝え合い 響き合い 高め合う」子どもの姿

		伝え合う姿	響き合う姿	高め合う姿
基礎・基本定着期	小・低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自分の思いや考えをもっている</li> <li>*事柄の順序を考えながら話している</li> <li>*大事なことを落とさず聞いている</li> <li>*話題に沿って話し合っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*友達の思いや考えに興味を持っている</li> <li>*「いいね」「すごいね」など、聞いて簡単な感想が言い合っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「もっとこうしたいね」「もっといい方法はないかな」など、友達といっしょに考えている</li> </ul>
	小・中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自分の思いや考えをまとめている</li> <li>*筋道を立てて話している</li> <li>*話の中心に気を付けて聞いている</li> <li>*進行に沿って話し合っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*友達の思いや考えと自分の思いや考えを比べている</li> <li>*「ここは同じだね」「ここがちがうね」と確かめ合っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「どの方法がいいかな」「だれの考えがやりやすいかな」など、友達といっしょに比べている</li> </ul>
充実期	小・高学年 中1	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自分の思いや考えを広げている</li> <li>*目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことを的確に話している</li> <li>*相手の意図をつかみながら聞いている</li> <li>*計画的に話し合っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*友達の思いや考えを受け止めながら、自分の思いや考えとの相違に気付いている</li> <li>*相手の考えについて、思ったことや自分の考えを交えながら述べ合っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「～さんの考えに加えて」「～さんの考えを聞いて」など再構築しながら、よりよい考えを見出だしている</li> </ul>
発展期	中2・中3	<ul style="list-style-type: none"> <li>*情報を分析し、気づいたこととその根拠や理由を述べている。</li> <li>*事実に基づき課題を確認している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*課題解決のアイデアを出し合っている。</li> <li>*課題解決の具体的な方法を話し合っている。</li> <li>*課題解決方法を試してその結果を確かめ合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*学習活動の良かった点や課題について、根拠や理由をもとに評価している。</li> </ul>

#### (4) 教師のファシリテートとは

ファシリテート (facilitate) …… 「容易にする」「楽にする」「(行動・過程など) を促進する・助長する」  
 ファシリテーター …… 「(物事を) 容易にする人」「(グループの) まとめ役, 世話人, 進行係」  
 ファシリテーターとしての教師 …… 対話的で協働的な学びを実現するためのキーパーソン

授業におけるファシリテーターは、知識や解決策を提示するのではなく、子どもが持つ経験値や知識、感情を尊重し、寄り添い、問いかける。子どもの興味・関心や主体性を重視することによって、子ども自らが新たなアイデアや問題解決策を発見していく。そのことが、深い学びができる環境づくりにつながる。

##### <ファシリテーションの4ステップ>

1. 傾聴	児童・生徒のつまずきや違和感・困難を傾聴する。話している内に考えがまとまり、問題が解決する手がかかりになる。
2. 問いかけ	「問いかける」ことで問題の本質を明らかにする。
3. リフレーミング	物事を違った視点で捉えなおすこと。違った視点で考えて、問題解決へ導くのが目的。(思考の整理・ヒントを与える)
4. 内発的動機付け	児童・生徒が「自ら進んでやりたい」と内面から動機付けする。

#### (5) 小中をつなぐ算数・数学の授業づくり

##### 算数・数学科の目標

『数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す』



##### 小中をつなぐために

- ① 児童・生徒の実態把握 (小6・中1) …… 基礎力の確認と各種学調から分析
- ② 課題を明らかにし、学習活動の改善方法の検討
  - a. 単元計画に、児童生徒のレディネスを把握した授業展開と補充指導の時間の位置づけ
  - b. 「見方・考え方」を働かせた探究プロセス重視の問題解決
  - c. ICTの活用による個別最適化された学びの提供



校種間接続による小中乗り入れ指導とTTによる学習支援

- ③ 小中の授業を互いに見合っ、改善点を見出し、授業力・学力向上を目指す。

#### (6) 効果的なICTの活用について

昨年度、「ふるさと学習」「授業づくり」の両部会において行ってきた活用例は次の通り。

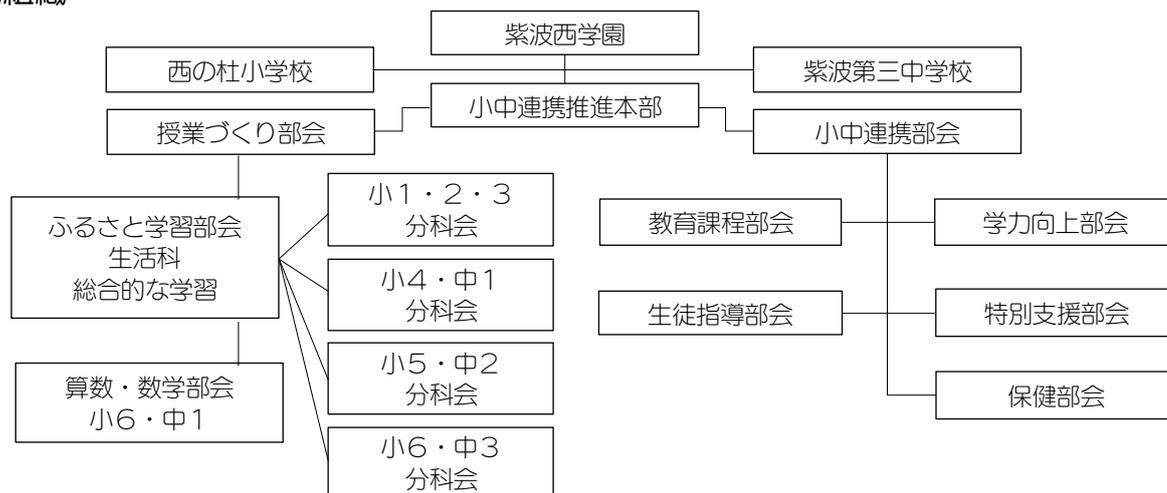
##### <ふるさと学習 (総合的な学習・生活科) におけるICT機器の活用>

① ロイロノート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンキングツール</li> <li>・ カード作成 (写真動画・テキスト・web など)</li> <li>・ カメラの活用</li> <li>・ ファイル・ポートフォリオ</li> </ul>
② Teams	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探求活動記録の交流</li> <li>・ 写真等のファイル共有</li> </ul>
③ 電子黒板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習や本時の思考を促すための写真の提示</li> <li>・ 本時の授業の流れの提示 (ユニバーサルの活用)</li> </ul>
④ パワーポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼンテーション</li> </ul>

##### <授業づくり (国語・算数・数学・社会・道徳) におけるICT機器の活用>

- 小1の国語科では …… 児童に文のイメージをもたせるために写真や動画を活用  
 小4算数科では …… 「角」の見方を提示する際に活用  
 中2数学科では …… 個々の考えを共有するためのロイロノートの活用  
 中2理科では …… 実験結果の確認・グラフの比較・分類・考察の交流  
 中3社会科では …… 資料の提示  
 小6道徳では …… 導入のアンケートや振り返りの共有にロイロノートを活用・挿絵の提示  
 今年度は昨年度の成果を活用しつつ、さらに効果的な活用方法を見出していく。

## V 研究組織



## VI 研究日程

	会議・打ち合わせ	研究会（授業づくり）	学力向上部会
4月	プロジェクト会議①4/7 ・研究の概要 ・公開の概要の確認 ・学校要覧発注	小中合同理論研 4/20 理論研 4/27 小のみ ・生活科・総合的な学習に関する 内容	4/18 学力調査
5月	・一次案内発送	理論研 5/11・25 小のみ ・生活科・総合的な学習に関する 内容 授業研・公開に向けて ・小6算数 授業研・公開に向けて	学調分析・補充指導 ↓
6月	プロジェクト会議② 助言者・司会者・記録者の依頼	授業研 (小6・中3) 6/1 合同 (小5・中2) 6/8 部会中心 (小2・3) 6/15 小のみ (小4・中1) 6/22 合同 (小6算数) 6/29 部会	
7月	プロジェクト会議③ ・指導案検討 ・リーフレット検討	授業研 (小1) 7/6	
8月	・二次案内発送 ・リーフレット作成	学校公開 指導案作成 指導案検討会（講師助言） 授業研 (中1数学) 8/31 合同	学力向上研修会 8/23
9月	プロジェクト会議④ ・指導案決定 ・リーフレット印刷	(小3・5授業研) 9/7 部会 (小のみ) 公開授業 授業づくり 9/21	
10月	プロジェクト会議⑤ ・司会者・記録者打ち合わせ ・授業の流れ・協議の柱 ・指導案印刷 ・資料の袋詰め	各部会ご準備 10/5 授業づくり	10/4 岩手県学力調査
11月	学校公開 11/8 ・会場設営 ・総括	公開授業準備 11/2 学校公開 11/8or7or12	学調分析・補充指導 ↓
12月	・礼状発送	総括（アンケート）	小 CRT 学力調査
1月	・研究集録作成	反省 1/18	学力向上研修会 1/12
2月	・研究集録完成 ・次年度計画	次年度計画 2/29	CRT 補充指導
3月	・研究集録配布		

### <学校公開前の授業研究会の考え方>

- 1) 公開前にどの学年も授業研を行い、本学園の研究について確認し、授業力向上をめざす。
- 2) 小・中の年間計画を練り合わせ、できるだけ多くの授業を見合う（合同でできる授業研と部会あるいは小のみの授業研となる場合がある）。
- 3) 文部科学省リーディング DX スクール事業に採択される見込み。授業における ICT 有効活用も併せて推進する。



## 紫波町小中一貫教育の方針

### (1) 教育課程の編成・実施

#### ① 学習指導の一貫性の確保

◇ 9年間の教育目標を共有，非認知能力を培う場	➤ 教科等の系統性・連続性を踏まえた学習指導 ➤ 教科等を横断した学習指導 ➤ 生徒指導・生活指導 ➤ 評価の改善
-------------------------	--

#### ② 小中一貫教育の推進を図るための指導組織・指導方法

◇ 多面的・多角的に子供を観察・指導・支援	➤ 小学校教科担任制の導入 ➤ 小中学校乗り入れ指導 ➤ ティームティーチングの導入 ➤ 言語能力・対話力の育成
-----------------------	---

#### ③ 多様な異学年交流の設定

◇ 異年齢との関わり，多様な考えから，共感的な子供に	➤ 総合的な学習の時間 ➤ 部活動 ➤ 委員会活動
----------------------------	---------------------------------

#### ④ 特別支援教育の充実

◇ 小中の接続，情報の共有，継続性のある支援	➤ 学習環境への継続的な配慮 ➤ 個別の教育支援計画・指導計画 ➤ 通級による指導・交流学习
------------------------	--

#### ⑤ 就学前教育との接続「かけはし期カリキュラム」

◇ 9年間を見通し，成長段階に応じた指導の工夫	➤ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有 ➤ 生活科をベースとし横断的指導を加えた架け橋期カリキュラムの編成
-------------------------	---

#### ⑥ 小中一貫教育の実施・改善のための体制整備等

◇ 継続的な活性化のため，取組を検証し，改善	➤ 小中一貫教育検証委員会からの助言 ➤ 学校運営協議会との連動 ➤ 小中連携 PTA 活動の推進
------------------------	---

### (2) 学園経営の方針：「かかわり」をキーワードにした教育活動

「場」とのかかわり	「人」とのかかわり	「教材」とのかかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業・学校生活</li> <li>・ 行事・課外活動</li> <li>・ 家庭・地域の暮らし</li> <li>・ インターネット活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族や友達</li> <li>・ 同世代の児童生徒</li> <li>・ 教職員・保護者・地域住民</li> <li>・ その他の社会人・外国人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の学習内容</li> <li>・ 領域の学習内容</li> <li>・ 各種メディアの情報</li> <li>・ 生活・環境・歴史・文化等</li> </ul>

紫波町小中一貫教育で目指す資質・能力

	資質・能力	具体的要素	目標達成のための方策
他者との関わりで必要となる資質・能力	A1 思考力	① 創造力 ② 熟慮 ③ 探究 ④ 論理的思考 ⑤ 学んだことの生活化	A1 思考力の向上 多くの他者とともに学び合う活動を通し、多面的・多角的な思考力、想像力等を伸ばす。
	A2 判断力	① 課題発見 ② 自主的調査 ③ 情報の取集理解 ④ 自己肯定力 ⑤ 選択力 ⑥ 決定力	A2 判断力の向上 自主的な探求等による主体的な活動を実現し、他者の気づきや考え方を共有し、自分らしい考えや発想を練り合わせ、納得した解決策を見いだせる判断力、選択力等を伸ばす。
	A3 表現力	① 自分なりの表現及び姿勢 ② 対話力 ③ 他者への思いやり ④ コミュニケーション力 ⑤ 話す力(日本語・英語)	A3 表現力の向上 より多くの他者に関わる機会を拡大し、グループ活動や共同活動など多様な体験活動を通し、自己表現力やコミュニケーション力等を伸ばす。
	A4 自制心	① 適応力 ② コントロール力 ③ 忍耐力 ④ 倫理観 ⑤ 道徳観 ⑥ 規範意識	A4 自制心の向上 多面的な考えを尊重し、建設的な議論ができる能力を育成し、多くの他者との交流により、他者を思いやる心など、豊かな人間性、規範意識を高める。
自分自身の生き方の基本となる資質・能力	B1 主体性	① 持続的学び ② 自立 ③ 行動力	A5 主体性の獲得 他者と協働しつつ、自ら考え抜く自立した活動により、主体性、行動力等を伸ばす。
	B2 意欲	① 自負心 ② 興味 ③ 工夫 ④ 探究 ⑤ 好奇心 ⑥ 挑戦	B1 意欲の促進 興味関心を大切に活動により、自尊心を育み、自己有用感を高め、挑戦意欲等を養う。
	B3 多様性	① 異質の受容 ② 他者理解	B2 多様性の獲得 集団での活動(遊び等)や異年齢の関わりを通し、他者を認める意識付けを行い、異質の受容等を身に付ける。
	B4 協調性	① 協調 ② 協働 ③ 共同	B3 協調性の獲得 行動や考え方など、自分と違う人を否定するのではなく、相手を認めることにより、協調性等を高める。
	B5 感性	① 想像 ② 五感 ③ 多視点 ④ 感動 ⑤ 感受性	B4 感性の練磨 自分たちがこれから生きていく未来社会を創造するための豊かな感性を育み、想像力、感受性等を養う。
全ての基礎・基本となる資質・能力	C1 基礎的・基本的な「知識・技能」	① 各教科の知識・理解・技能	C1 基礎的・基本的な『知識・技能』の取得 確かな学力、豊かな人間性、健やかな育ちを育むための教育課程の編成を行い、基礎的な知識・理解・技能等を養う。
	C2 健康・体力・命	① 心身の健康 ② 2 自他の生命尊重	C2 健康・体力・命の意識付け 体育の授業や運動部活動の充実をはじめ、健康であることの有難みを感じる指導を行い、心身の健康、自他の生命尊重等を育む。
	C3 グローバル社会への対応力	① 異文化理解と価値共有 ② 私と世界(貧困・気候・環境等)	C3 グローバル社会への対応力 価値観を共有し、誰一人取り残さず、他を認める ESD 教育(持続可能な開発のための教育)を推進し、異文化理解や価値共有等を身に付ける。